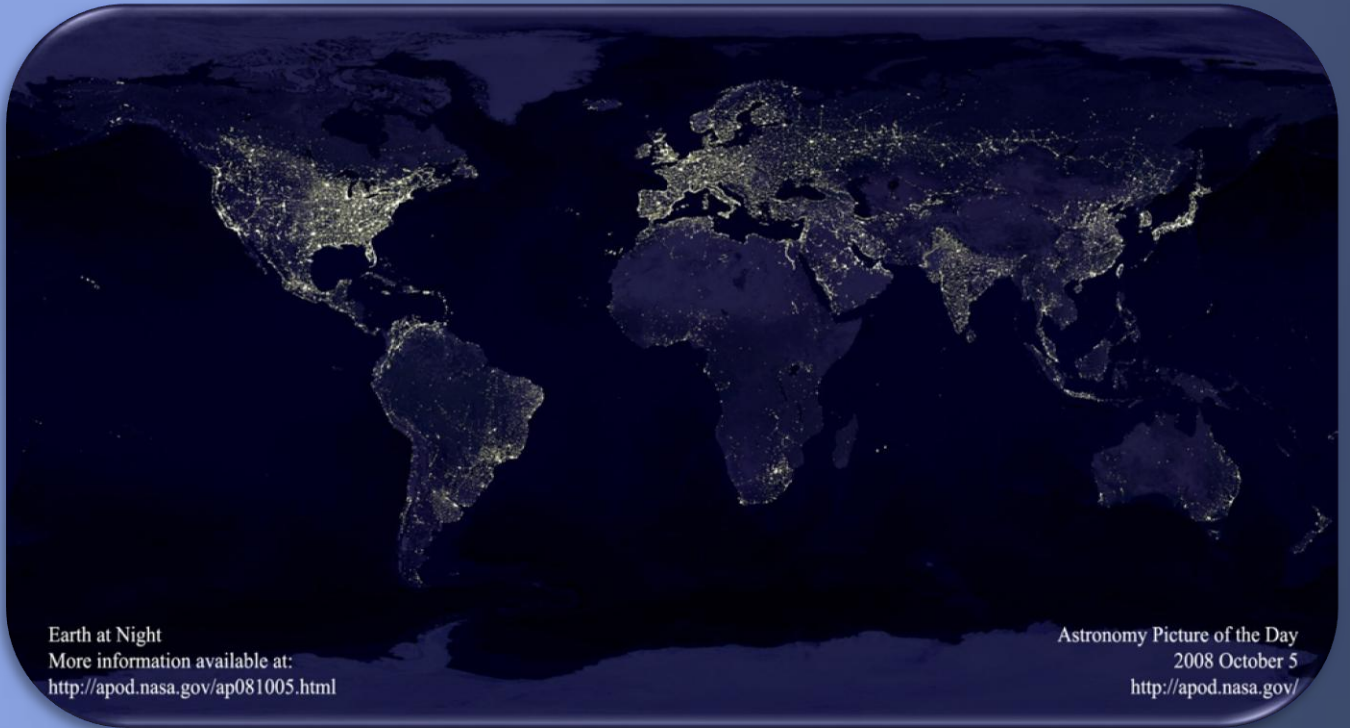


照明を賢く減らして、節電・エコ！

— 身近な環境問題・光害(ひかりがい) —



Credit: C. Mayhew & R. Simmon (NASA/GSFC), NOAA/NGDC, DMSP Digital Archive

この画像は、**宇宙から見た夜の地球**です。世界の中でも、日本は特に明るく輝いています。宇宙まで漏れていったこれらの光は、夜空を明るく照らして**星が見えにくくする**だけでなく、**エネルギーの浪費**にもなっています。また、人工光は**生態系や人体に悪影響**を及ぼすこともわかってきています。

【過剰な照明、不適切に設置された照明による光害の例】

エネルギーの浪費

無駄な照明の使用は、電気エネルギーの浪費です。国内で年間2000億円の電気代が無駄になっているとの試算※もあります。

(※星空を守る会, 1998年の試算)

生態系への影響

多くの動物や昆虫に対し、光はその行動パターンに影響を与えます。特に渡り鳥、ウミガメ、蛾などは、人工光に誘引され、多数犠牲となっています。

人体への影響

夜間に強い光を浴び続けると、体内時計が乱され、健康被害(不眠症、うつ病、ガンなど)に結び付くとの研究結果が数多くあります。

星の見え方への影響

夜空に漏れた光が大気中で散乱することにより、星が見えにくくなります。明るい日本の都市部では、もはや直接天の川を見ることはほとんど不可能です。

東日本大震災と、その後の電力危機。私たちは今、エネルギーの無駄を省いた持続可能な社会への転換が求められています。そのために、個人レベルで無理なく実行できる取り組みのひとつは、**エネルギー消費を抑え、地球環境に調和したやさしい照明の使い方**に転換していくことではないでしょうか。

環境にやさしい照明の使い方とは…？



不適切な照明

- 夜空に光が漏れている
- 木々を照らしている
- 光が家の中に侵入している
- 運転者、歩行者にまぶしい



適切な照明

- 必要な場所だけを照らしている
- 小さいワット数でも十分明るい

(図出典：環境庁「光害の防止のために」)

これからの照明のキホン

照明は、必要な場所だけを、必要な量の明るさで、必要な時間にだけ点灯する

- 必要ない照明は、こまめに消灯しましょう
- 消費電力の小さいLED照明、電球型蛍光灯等に交換しましょう
- 屋外照明にはセンサーやタイマーを取りつけ、必要な時だけ点灯しましょう
- 屋外照明は、周辺や夜空への光漏れがないよう、形状・角度に配慮しましょう

【どのくらい省エネになるの？】 例えば、夜間点けっ放しの防犯灯 (60W、毎日10時間点灯) を人感センサー付きのものに交換した場合 **年間約120kgのCO₂と約5千円の電気代削減** に相当します (CO₂排出係数0.555kg/kWh, 電気料金単価22円と仮定)

光害についてさらに知りたい方は **光害.net** <http://hikarigai.net/>

光害NET

検索

文・問合せ先：越智信彰 (東洋大学経営学部) ochi@hikarigai.net